

THE JAPAN FOUNDATION 2016/2017

国際交流基金 平成28(2016)年度年報

THE JAPAN FOUNDATION 2016 / 2017 国際交流基金



日本の友人をふやし、 世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、

「文化」と「言語」と「対話」を通じて

日本と世界をつなぐ場をつくり、

人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

文化



〔文化芸術交流〕

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを超えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

言語



〔海外における日本語教育〕

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。

対話



〔日本研究・知的交流〕

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。また、世界共通の課題についてのシンポジウムや共同プロジェクトを通じ、有識者同士の交流を促進します。

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)とは

世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流の3つの分野を柱として、本部、京都支部、2つの附属機関(日本語国際センター及び関西国際センター)、さらに24の海外事務所(うち2つはアジアセンター連絡事務所)をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

沿革

1972年 国際交流基金(The Japan Foundation)設立
1973年 国際交流基金賞創設
1984年 日本語能力試験開始
1989年 日本語国際センター(埼玉県)設置
1991年 日米センター(Center for Global Partnership)設置

1997年 関西国際センター(大阪府)設置
2003年 独立行政法人国際交流基金となる
2006年 日中交流センター設置
2014年 アジアセンター設置

国際交流基金 平成28(2016)年度年報

Contents

はじめに

- P.01 国際交流基金(ジャパンファウンデーション)とは／沿革
P.04 理事長からのごあいさつ

国際交流基金を知りたい

- P.05 Chapter1. 地域・国別の事業の実施
P.06 Chapter2. アジアセンター
P.09 Chapter3. 震災からの復興に関する取り組み
P.10 Chapter4. 国際文化交流への理解と参画の促進

3つの交流事業

- P.11 文化 [文化芸術交流]
P.16 言語 [海外における日本語教育]
P.21 対話 [日本研究・知的交流]

資料編

- P.26 事業実績
文化芸術交流
海外における日本語教育
日本研究・知的交流
アジア文化交流強化事業
P.30 財務諸表
P.33 民間からの資金協力
P.35 世界の拠点紹介
P.37 諮問委員会等／組織図
P.38 ご案内

理事長からのごあいさつ

2016年は、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、次の2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて世界中の人々が日本を意識し、期待が高まった年でした。リオ五輪の開催時期にあわせ実施された日伯ポップス公演や展覧会、東京で開催された「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」公式プログラム文化イベントとしての「ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域～」公演は、新たな表現で日本を世界に発信し、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた機運を醸成する事業となりました。

3年目となる「アジア文化交流強化事業」では、ASEAN諸国を中心とするアジアに“日本語パートナーズ”を派遣するプログラムが加速し、派遣人数は前年度の2倍を超えました。プログラム開始以来、21万人以上の生徒に日本語や日本文化を紹介し、草の根交流の促進に貢献しています。また、2016年は、日本映画への認知度と関心を高めるとともに、アジア・パシフィックの映画産業の活性化に寄与することを目指し、日本映画総合プラットフォーム「JFF(日本映画祭)アジア・パシフィックゲートウェイ構想」を開始しました。9か国26都市での日本映画祭を通じ、人々が集い楽しむ場を提供しました。

2017年3月には、日中国交正常化45周年を記念して、「松竹大歌舞伎北京公演」を行い、計5回の公演チケットは、4日間で完売し、4,200人以上の観客が日本の華やかな伝統芸能を堪能し、大きな反響がありました。

また、日米センター及び安倍フェロウシップの25周年記念シンポジウムとレセプションを開催し、25年間の変化をふりかえるとともに、国際社会における日米の役割について展望しました。草の根レベルで地域に根ざした交流を進めるJOIプログラムも15年目を迎え、人と人とのふれあいを通して、日本文化の多様な魅力を発信しています。

日仏友好160周年にあたる2018年には、大々的に日本の文化を紹介する「ジャポニスム2018」がパリを中心とするフランスで開催予定であり、国際交流基金の中に事務局が設置されました。フランスから全世界へと日本文化を発信すべく、体制作りや準備に役職員一同一丸となって取り組んでいます。

数々の事業を世界各地で展開するうえで、国際交流基金には、国際文化交流の中核的専門機関としてのさらなる貢献が

求められています。その期待に応えていくために、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」という私たちのミッションに基づき、文化や言語の違いを超え、平和で豊かな世界につながる日本への共感や信頼がはぐくまれるよう、積極的に活動を展開していきます。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年9月

国際交流基金 理事長 安藤 裕康



Chapter
1

地域・国別の事業の実施

国際交流基金では、相手国・地域の事情についての的確に情報収集を行ったうえで地域別に事業方針を立て、またその国・地域との間の外交上重要な情勢等を踏まえて、効果的な事業の企画と実施に努めています。

東南アジア

アジアセンターは、アジア文化交流政策「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」に基づき、ASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。2016年度は、12か国・地域に364人の「日本語パートナーズ」を派遣して日本語学習を支援しました。また、芸術・文化の双方向交流として516件の事業を実施・支援し、のべ116万人による交流や協働の場をつくり出しました。

地域別方針に基づく事業の実施例

中央アジア

2015年の安倍首相による中央アジア歴訪を受けて、中央アジアとの交流を深める事業を積極的に進めています。2016年度は、ウズベキスタンに文化交流使節団を派遣し、和太鼓公演を開催したほか、中央アジア5か国にて武道のデモンストレーション等を実施しました。また、東京において中央アジア5か国の専門家を招いて各国の文化を紹介するシンポジウムを開催したほか、5か国から日本語学習者102人を招へいし関西国際センターで研修を実施しました。

中国

外交環境の変化を注視しながら、若手専門家の育成、若年層への訴求、地方部への事業展開等をキーワードに事業を実施しました。2016年度は、日中美術キュレーター交流や中国知識人招へい等を通じて専門家同士のネットワークを広げたほか、設立10周年を迎えた日中交流センターが中国の地方都市で展開する「ふれあいの場」等を通じて日中の若者によるさまざまな交流活動を支援しました。また、2017年の日中国交正常化45周年の開幕を記念して北京で実施した歌舞伎公演は、若年層を中心に4,200人を超える観客が来場しました。

外交上重要な情勢の展開を踏まえた事業の実施例

ブラジル・リオ五輪特別文化交流事業

リオ五輪で世界の注目が集まる中、日伯ポップス公演、日本前衛美術展、日本映画上映会を開催しました。ポップス公演では、日本とブラジルのアーティストが競演し、フィナーレには全員で「上を向いて歩こう」をポルトガル語で歌い、未来へつなげるメッセージを伝えました。美術展では1964年の東京五輪前後の時代の日本の前衛美術を紹介。映画上映では、東京五輪開催当時に活躍していた巨匠・中平康監督の作品をブラジルで初めて特集上映。これらの文化事業を通じて、幅広い層に日本文化を紹介するとともに、「リオから東京へ」の機運を盛り上げました。

Chapter
2

アジアセンター

2013年12月に東京で開催された日・ASEAN特別首脳会議において、日本政府が発表した新しいアジア文化交流政策「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」を担う部署として、2014年4月にアジアセンターを設置しました。Communicate(交流)、Connect and Share(共有)、Collaborate(協働)、Create(創造)の4つの「C」による活動を通じて、アジアに住む人々の間に、共感、共生の意識をはぐくむことを目指し、さまざまな分野で事業を実施しています。

アジアセンターが実施する2つの事業

	日本語学習支援		芸術・文化の双方向交流	
	“日本語パートナーズ”派遣人数	教えた学生数(のべ)*	主催・助成件数	参加者数(のべ)
2014年度	100人	7,000人	164件	220,000人
2015年度	170人	75,000人	379件	810,000人
2016年度	364人	130,000人	516件	1,160,000人

*当年度内に帰国した“日本語パートナーズ”が教えた生徒数

2016年度をふりかえって

交流から協働、協創へ 新しいステージに入ったアジアセンタープロジェクト

2014年4月に活動を開始したアジアセンターは2016年度に3年目を迎え、当初企画していた構想が次々に現実になりました。“日本語パートナーズ”派遣事業ではASEAN全10か国への派遣が実現し、また現地からの強い要望を受けて台湾、中国への派遣も開始しました。年間73回日本各地で実施した説明会には2,400人が参加し、応募総数が1,347人にのぼる等、このプログラムへの関心も年々高まっています。芸術・文化の分野では、ネットワーク形成、人材育成、持続的なプラットフォーム構築、国際的協働、成果発信等の領域でさまざまなプロジェクトを実施しました。映画・映像分野ではJFF(日本映画祭)の各国での開催が始まったほか、3か国の監督による映画「アジア三面鏡2016:リフレクションズ」が完成し、秋の東京国際映画祭でワールドプレミア上映を行いました。美術分野では日本と東南アジアのキュレーターが協働して企画する国際美術展「Condition Report」も各国で開催し、また、メディア・アートプロジェクトも始動しました。そのほか、イスラム若手知識人招へい事業、柔道交流事業も新しく始めた取り組みの例です。2015年にビエンチャン、プノンペンに設置したアジアセンター連絡事務所に加え、ヤンゴン、ホーチミン、チェンマイには日本とアジアの文化芸術・市民交流の拠点となるスペースを開設し、活発な活動が始まっています。これら多様なプロジェクトの進展により、これまでになかった新しい出会いがアジアの各地で生まれ、そこから新しい協働が生まれてきています。派遣先での任務を終えて帰国したパートナーズの多くは、帰国後も各国の生徒や先生との交流を続けたり、活動の経験を生かした交流事業を始めています。私たちはこれまでの実績をベースに、日本とアジアとの交流の深化に向けた取り組みを続けていきます。(アジアセンター部長 下山 雅也)



チェンマイふれあいの場 Asian Culture Station 「Equinoctial」展オープニング
撮影:Atikom Mukdaprakorn



フィリピン日本映画祭オープニングレセプション

日本語学習支援“日本語パートナーズ”の派遣

アジアで日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う人材を現地の教育機関へ派遣しています。2016年度は364人を415機関の中学・高校等に派遣し、ASEAN10か国と中国・台湾への派遣を達成。2016年度帰任した“日本語パートナーズ”は、のべ13万人の生徒に対する日本語教育に従事しました。

“日本語パートナーズ”経験者の声

現地のファンになる

自分以外に日本人が全くいない環境で日本のファンを増やすことは、想像していた以上に難しかったですが、その分やりがいも感じ、さまざまなことに挑戦できました。気づいたのは、「日本のファンを増やすためには、まず自分自身がマレーシアのファンになることが肝心」ということです。現地のイベントで私が民族衣装を着たり、手でご飯を食べたりすると、現地の人々は本当に喜んでくださり、次は必ず日本について聞いてきてくれます。熊本地震が発生したときには、派遣先校の皆さんが「メッセージを送ろう」と言ってくれ、熊本の中学校にメッセージを送りました。後日中学校からもお礼のメッセージが届き、相互の交流の架け橋となることができたと思います。



阿部宣行氏 マレーシア2期
2016年1月～10月派遣

生徒の笑顔が宝物

ベトナムに10か月滞在し、文化に触れ、現地の人々と交流できたことはとても貴重な体験でした。ベトナムにとって、日本がいかに近い国であるか、日本語熱が高いかということも改めて感じました。ベトナム文化と日本文化の類似点が多くあるということもうれしい発見です。学校で日本語を教えたり、日本文化を紹介することの重要性も、ひしひしと感じました。一番の宝物は、何といても生徒たちの笑顔です。文化紹介、キャンプ等の活動、何げない授業の中で生徒たちが見せてくれる笑顔に疲れも吹っ飛びました。これからの私の人生においても、大きな支えになってくれると思います。日本に帰って来て、この体験をいかに生かしていくかがこれからの大切な課題です。



梶原香苗氏 ベトナム2期
2015年8月～2016年6月派遣

アジアセンター事業諮問委員からの共同声明

2016年9月、国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会のASEAN側委員10人は共同文書を発出し、アジアセンター事業を高く評価しました。主なポイントは次のとおりです。

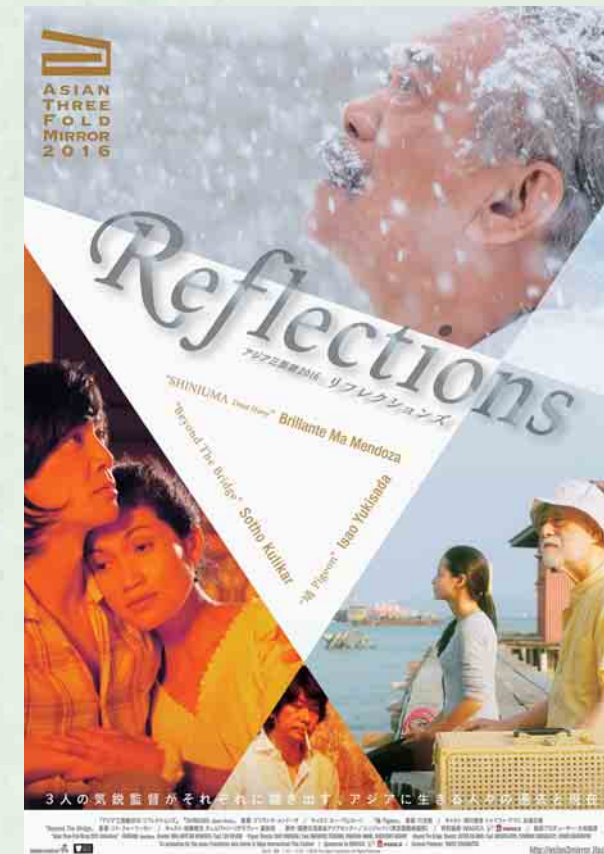
- 私たちは、アジア域内で人と人をつなぎ、ネットワークを広げ、協働の機会を創出して、アジア域内に共感と共生の意識をはぐむという明確な目標の下、東南アジアに重点を置いて交流事業を実施している国際交流基金アジアセンターの重要性と、その事業の幅広さを、高く評価します。
- 私たちは、「文化のWAプロジェクト」を通じて表明された日本政府の誠意、すなわち日本とアジアの国々との間にイコール・パートナーシップを築き、双方向交流を推進し、多様なアイデンティティ、各国の文化や伝統を尊重して、多様性における調和を深めようという姿勢を歓迎します。



第3回 国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会
バンコクにて(2017年2月)

芸術・文化の双方向交流

美術、映画・映像、舞台芸術、スポーツ、市民交流、知的交流等、さまざまな分野で、アジアの人々の交流活動を促進します。双方向性、協働性を重視し、各々のアイデンティティと多様性を尊重し合い、共にアジアの新たな文化を創造していくことを目指しています。



アジア・オムニバス映画製作シリーズの第1弾は、日本、フィリピン、カンボジアの監督による「アジア三面鏡2016:リフレクションズ」東京国際映画祭2016でワールドプレミア上映



日本サッカー協会、Jリーグとの協力によるサッカー交流事業
(ベトナム ビンズオン省)



ストリートダンスを軸とした国際共同制作「ダンス・ダンス・アジア ～クロスिंग・ザ・ムーヴメント～」 撮影:関口佳代



東南アジアと日本の若手キュレーターの協働による美術プロジェクト
Condition Reportでのワークショップ



2016年8月にマニラで開催されたジャーナリスト交流事業「日本ASEANメディア・フォーラム」



アジア・文化人招へいプログラム
シティ・カマルディン(映画監督、ブルネイ)
監督作品「ドラゴン・ガール」上映会
撮影:御厨慎一郎



Chapter 3

震災からの復興に関する取り組み

世界各地で自然災害が起こり、深刻な問題を抱える現代において、震災復興に取り組む日本の姿勢を伝え、世界中から寄せられた温かい支援へ感謝を表すため、復興再生をテーマにした事業や防災教育等、将来に教訓を生かし、交流をはぐくむ事業を実施しています。

DOOR to ASIA

アジア8か国(日本含む)から8人の若手デザイナーを東日本大震災被災地域に招へいし、2016年9月に12日間にわたって共同生活を送りながら、地域の魅力発信につながるデザインを提案するプログラムを実施。参加デザイナーがデザインによる地域創生や復興支援を探索するとともに、東北の事業者にとってはアジア市場への展開のヒントが得られる場となりました。



陸前高田市「奇跡の一本松」を視察



酒蔵 男山本店の現場視察



インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(六本木デザインハブ)での報告会
(写真:Kazuhiko Monden)

日本研究フェローシップ

ベンジャミン・エプSTEIN
(英国/ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン)

「日本の災害精神保健活動:人類学的考察」というテーマで、2016年10月から東北大学医学部・医学系研究科を拠点に、東日本大震災後の被災者の心のケアに関して研究しています。医療文化人類学の視点から、被災後の長期的なケア制度の確立、政府や自治体を含むケア・ネットワーク構築をめぐる社会的課題についてフィールドワークを行っています。



ベンジャミン・エプSTEIN氏

HANDs!プロジェクト

クリエイティブな発想と手法による防災教育の担い手の育成と、国際的つながりの醸成を目指して2014年にスタートしたHANDs!プロジェクト。2016年度はインドネシア、フィリピン、タイそして阪神大震災から22年経た神戸で研修を実施。子どもたちと共に、自分たちが作った防災教育プログラムを実施しました。



神戸市防災教育イベント
(写真: Kenichi Tanaka)



防災教育プログラムを作る参加者

三陸国際芸術祭 [Sanriku-Asian Network Project]

三陸国際芸術祭に協力し、東北とアジアの郷土芸能を結び取り組みを行っています。2016年度は、インドネシアのパプア州より2団体、フィリピンからは芸術高校に通う学生たちを招へいしたほか、「三陸とアジアの未来」と題したシンポジウムも開催。また、10月には白澤鹿子踊×バリ島の獅子パロンによる共演「シシの系譜」を六本木アートナイトで上演。派遣事業では、岩手県大船渡市から郷土芸能団体を牽引する若手伝承者をインドネシアに派遣し、交流事業を実施しました。



三陸国際芸術祭2016



六本木アートナイトで上演された「シシの系譜」

Chapter 4

国際文化交流への理解と参画の促進

国際交流基金では、「国際交流基金賞」及び「国際交流基金地球市民賞」により、国際文化交流を通じて日本と海外の相互理解の深化に貢献した個人・団体や、地域に根ざした優れた国際交流を行っている団体を顕彰しています。

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通して、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に大きく寄与し、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。国際交流基金設立の翌年、1973年の創設から44回目となる2016年度は、89件の個人及び団体の中から3件を受賞者・団体に決定しました。

2016年度 受賞者・団体

蔡 國強[中国]
(現代美術家)

中国で生まれ、日本でアーティストとして開花した世界的美術家。近年は世界各地でその場所の歴史を遡り、現地の人々と共に、宇宙や自然を題材に大規模プロジェクトを実現している。日本では、2011年東日本大震災後の「いわき万本桜」プロジェクトの支援等を行い、異なる地域、宗教、言語の人々をつなぐ国際交流の実践に尽力している。



Cai Guo-Qiang, Qatar, 2016.
Photo by Wen-You Cai, courtesy Cai Studio

スーザン・J・ファー[米国]
(ハーバード大学教授/同大学ウェザーヘッド
国際問題研究所日米関係プログラム所長)

米国における日本研究を長年にわたり牽引し、比較政治学の視点に基づいた日本政治への洞察は、多方面から高く評価されている。ハーバード大学のライシャワー日本研究所、同大学ウェザーヘッド国際問題研究所日米関係プログラムの所長として、数多くのフェローの研究を支援し、日米を中心とした国際相互理解の増進に貢献してきた。



ブラジル日本語センター(CBLJ)
[ブラジル]

CBLJは日本語教師養成、教材・教授法の開発研究、国際文化交流を通して、のべ1,000人を超える日本語教師の育成、毎年約20,000人の学習者を支援してきた。ブラジルにとどまらず、ラテンアメリカにおける日本語教育の中核的役割を果たし、30年以上にわたり日本語教育を通じて国際理解の推進に貢献している。



国際交流基金地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、共に考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。2016年度は133件から選ばれた3団体に授与し、受賞団体が100団体に達しました。

2016年度 受賞団体

ノルテ・ハボン
(コスキン・エン・ハボン開催事務局)

1975年南米の民族音楽folkloreの愛好家グループ「ノルテ・ハボン」が「コスキン・エン・ハボン」を立ち上げ、以来毎年フェスティバルを開催。現在は10,000人が集まる一大フェスティバルに成長し、近年も本場との交流が活発に行われている。町をあげて異文化と交流し受容してきた41年の歩みを評価。



熊本市国際交流振興事業団

1993年に設立され、多文化共生、地球市民育成等を展開し、熊本地震に際しては、災害多言語支援センターを開設し、ニーズに寄り添った支援を行った。外国人住民も一体となった支援が行えたのは、普段からの密接な連携と地域外国人の拠点として認知されていたからであり、同事業団の多文化共生事業は他のモデルとなるものとして評価。



硫黄島地区会

硫黄島はギニアの太鼓ジャンベの島として知られ、1994年「ジャンベの神様」ママディ・ケイタ氏が来島以降活発に交流を続けてきた。島にはジャンベスクールがあり、硫黄島地区会は、スクールの運営や留学生の受け入れ等、ジャンベの全てを下支えしており、規模の小さい地域の国際文化交流の一つのモデルとして評価。





文化 [文化芸術交流]

日本の文化を、美術や音楽、演劇、映画からファッションやデザインまで幅広く世界に紹介しています。また、言語を超えた共感の場をつくり出し、共に創造する喜びを分かち合っ、人と人との交流を深めていきます。

文化芸術交流事業

主催事業実施件数 / 来場者・参加者数
754件 / 1,164,316人

「日本への関心・理解が高まった」
91% (一部事業集計)

放送コンテンツ等海外展開支援事業

テレビ番組放送数(のべ) / 国・地域数
309番組 / 62か国・地域

推定視聴者数
1.6億人

日中交流センター事業

派遣・招へい者数
164人

「ふれあいの場」来場者数
61,486人

「日本への関心・理解が高まった」
89%

2016年度を
ふりかえって

現地でのニーズを把握しながら 文化・映像・交流の場を届けていきます

<文化事業部>

**ジャンル横断、集中と連続、クオリティ。
日本の文化・芸術を多面的に紹介しました**

2016年の世界最大のイベントであったリオ五輪にあわせ、美術展と日伯合同コンサート、映画上映を組み合わせた日本文化紹介事業をリオで実施し、「リオから東京へ」をテーマに、東京五輪2020へ向けてのメッセージの発信を試みました。一方、これまで日本文化が必ずしも十分には紹介されてこなかった中央アジア、アフリカにおいて大型文化事業を実施したほか、シンガポールでは新しい試みとして、日本の伝統芸能である能楽と最新テクノロジーによる3D映像を融合させた公演に挑戦しました。また北京において松竹大歌舞伎公演を主催、日中外交正常化45周年記念事業の開幕を飾りました。

(文化事業部長 伊東 正伸)

<映像事業部>

**日本のテレビ番組と映画を紹介し、
各国で日本理解の機会を提供します**

開発途上国を中心に、日本理解のきっかけとなる日本のテレビ番組を紹介する事業を行っています。2016年度は62か国・地域でのべ309番組を放送しました。2015年度からあわせて120か国・地域の

テレビ局に対し、のべ1,734番組の提供契約を結び、順次放送しています。

また、各国での日本映画上映会や映画祭への支援にも力を入れており、2016年度は75か国・地域で114件の日本映画上映を実施。特に、メキシコのグアナフアト国際映画祭では日本招待年として大々的に日本映画を上映し、大好評を得ました。

(映像事業部長 金井 篤)

<日中交流センター>

**留学生の招へいを確実に継続しながら
中国国内の交流の場を活性化します**

2016年は第10期31人の中国人高校生が日本への留学を修了し、第11期31人が新たに来日しました。多感な時期の高校生が本当の日本を直接感じることは両国の相互理解において大きな意味があります。また、中国国内での交流の拠点「ふれあいの場」も14か所目が湖南省長沙に開設されました。

2017年も留学生の安全を確保しつつ、中国での「ふれあいの場」の新設と活用にも努めます。映像事業部やアジアセンターとも連携をしながら、中国の大学での日本映画上映会も実施していきます。

(日中交流センター事務局長 堀 俊雄)

文化芸術交流
<http://www.jpfi.go.jp/j/project/culture/index.html>



多様な日本の文化・芸術の 海外への紹介

国際相互理解の増進のため、伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力、公演、展覧会、翻訳・出版、講演等、さまざまな形で世界の人々に向けて紹介しています。また、人材育成やネットワーク形成等、文化・芸術分野における国際貢献のため、専門家の派遣・招へい、ワークショップ等を行っています。



美術・展覧会「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術1950-1970」



映画・日本映画上映—中平康特集「狂った果実」
©1956 Nikkatsu



音楽・左から 東京スカパラダイスオーケストラ、Emicida、Vanessa Da Mata、マルシア

オリンピック・パラリンピックにあわせた文化事業

リオ五輪にあわせ、1964年の東京からリオ、さらに東京へとバトンをつなぐ取り組みとして、美術、映画、音楽各分野の文化交流事業を総合的に展開しました。美術では、1950年代から70年にかけての日本の前衛美術の流れをブラジルで初めて紹介する展覧会「コンテンポラリーの出現」を開催し、30,000人を超える入場者を動員しました。映画では、「狂った果実」「夏の嵐」等、中平康監督作品8作品をブラジルで初めて特集上映。音楽では、「上を向いて歩こう」をテーマにしたポップスコンサートで、日本とブラジルのアーティストが今を生きる人々への普遍的なメッセージをリオから世界へ届けました。

松竹大歌舞伎北京公演

日中外交正常化45周年記念事業の幕開けとして、北京天橋芸術センターで、歌舞伎の人気作3演目を上演しました。歌舞伎の荒事の芸を見せる「鳥居前」(芝翫、孝太郎、門之助、橋之助、福之助ほか)、上方和事の代表作の一つ「封印切」(亀屋忠兵衛、門之助、吉弥、菅太郎ほか)、そして「藤娘」(孝太郎)を、豪華な配役で上演。計5回の公演チケットは発売開始後4日間で完売。計4,200名を超える観客が日本の伝統芸能を堪能しました。



「封印切」(亀屋忠兵衛:門之助、丹波屋八右衛門:芝翫)

日本祭り開催支援事業(シンガポール)

日本・シンガポール外交関係樹立50周年を記念し、シンガポール有数の野外フェスティバル「リバーナイトフェスティバル」にて、宮本亜門氏演出で能楽と3D映像を融合させた公演「YUGEN 幽玄」を実施。1,600人の観客が3Dメガネを着用し、能の演目(石橋、羽衣)をベースに3D映像を織り交ぜ表現された日本の自然や美しい幽玄の世界を楽しみました。



「YUGEN 幽玄 The Hidden Beauty of Japan」

「日本の家—1945年以降の建築と暮らし」展

日伊国交150周年を記念し、ローマのMAXXI国立21世紀美術館で、戦後から現代までに設計された日本の住宅建築を紹介する展覧会を開催しました(その後ロンドン、東京へ巡回)。会期中には、伊東豊雄氏や妹島和世氏ら世界で活躍する日本人建築家による講演会も行われ、のべ69,052人の入場者を集めました。



「日本の家—1945年以降の建築と暮らし」展

ASEANオーケストラ支援事業

オーケストラの演奏技術とマネジメント能力の向上を目指し、日本の演奏家の長期派遣(フィリピン、タイ)と、スタッフの短期招へい(ベトナム)を実施しました。また、ミャンマー国立交響楽団に対して、年間で6回にわたる現地指導等の継続的支援を実施しました。



演奏家長期派遣 バンコク交響楽団(タイ、バンコク)
森園康一(もりその やすかず)氏によるコントラバスの指導風景

カマン・カレホック考古学博物館 「保存修復学」フィールドコース

国際交流基金、トルコの文化観光省、アナトリア考古学研究所、ガーズィ大学の共催で、トルコのカマン・カレホック考古学博物館及びガーズィ大学において、若手の専門家や学生を対象に、紙と本の保存修復に関する博物館学フィールドコースを実施しました。



古書の修復実演の様子

中央アジアにおける日本武道団派遣

日本の武道紹介のため、中央アジア5か国(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン及びトルクメニスタン)に空手、剣道、柔道の専門家を派遣して、各国でデモンストレーションを実施したほか、現地の選手や生徒たちの指導にあたりました。



カザフスタンにおける柔道指導の様子

アジア学生パッケージデザイン交流事業 (ASPaC)

民間企業との連携事業として、日本を含むアジア6か国・地域で、学生を対象にしたパッケージデザインのコンテストを開催。応募総数3,000点の中から選出された入賞学生たちを日本に招へいし、授賞式や入賞作品の展示会、デザイン企業の視察等、次世代へとつなげる文化交流を実施しました。



ASPaC2016授賞式・受賞学生集合写真

翻訳推薦著作リスト『Worth Sharing』 全5号完成

日本の図書の海外での翻訳・出版を促進するため、日本の現代社会をよりよく理解するための良書を『Worth Sharing—A Selection of Japanese Books Recommended for Translation』という小冊子にまとめ、紹介する取り組みを2012年度から進めてきました。2017年春に第5号「日本の過去と未来」を刊行し、計100冊を紹介する翻訳推薦著作リストが完成しました。



「Worth Sharing」全5号

放送コンテンツ等の 海外展開支援ほか

日本のテレビ番組の海外への提供、日本映画祭の開催、各国の国際映画祭における日本映画の出品、上映のサポート等を行うことで、映像を通して日本文化への理解を深める機会をつくります。また、映画監督・批評家による講演会等を実施しています。



「ごちそうさん」



「秒速5センチメートル」



「学びEYE! 高知発! 鯉の國の極旨カツオ」

テレビ番組紹介

2016年度はドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等、62か国・地域で、のべ309の日本のテレビ番組の放送が開始されました。さらに、日本のテレビ番組の外国語版177件を制作しました。

グアナファト国際映画祭2016特集上映プログラム 「日本映画 1960～70年代特集」

「グアナファト国際映画祭2016」(メキシコ)において、1960～70年代の日本映画を5作品上映しました。映画監督の原田真人氏、河瀬直美氏、女優の桃井かおり氏らがゲストとして参加し、また、X JAPANのYOSHIKI氏、東京ブラスタイルのライブも行われ、両国の交流を深めました。



招待国として参加したグアナファト国際映画祭オープニングの様子



ロシアで開かれた「第50回日本映画祭」のオープニング

日本映画の上映

日本映画祭、日本映画上映会を、75か国・地域で114件開催しました。また、15か国15件の日本映画祭に資金を支援しました。

日中交流センター

日本と中国の未来を担う青少年を中心とする交流活動を促進し、互いの生活や文化を体験する機会を提供することで、相互理解を深めています。2016年に設立10周年を迎えました。次の10年も双方向性と協働性を重視した事業を実施し、より深く息の長い「心と心のつながり(=心連心)」を築くことを目指します。



2016年9月に来日し、23都道府県で留学生生活をおくった第11期生31人

中国高校生長期招へい事業

次世代を担う中国の高校生に、約11か月にわたり、日本の一般的な高校生の生活を体験する機会を提供しています。2016年度は、第10期生31人、第11期生31人を招へいし、これまでの招へい者数は360人となりました。第10期までに招へいした329人のうち103人は日本の大学または大学院に進学し、27人は社会人として日本の企業に勤務する等、日中間を結ぶ人材が着実に育っています。

大学生交流事業

日中の大学生が共同でイベントの企画、運営を行う交流事業を実施しています。日本の大学生チームを年2回公募し、選抜チームを中国「ふれあいの場」に派遣して、日本の伝統文化や現代文化、地方文化等をテーマに、学生の自由な発想による参加体験型の企画を行っています。2016年度は7件を実施しました。



2016年9月に広州ふれあいの場(中山大学)に派遣された福岡の学生たちが九州文化紹介や浴衣着付け、茶道等を実施

中国「ふれあいの場」

日本人や日本の情報に触れる機会に限られた中国地方都市の大学等に、音楽、アニメ、ファッション等日本の最新コンテンツの閲覧・視聴ができる「ふれあいの場」を設置し、今現在の日本が体感できる場を提供しています。また、在留邦人や現地の中国人の協力を得て、さまざまな日中交流イベントを開催しています。



2016年5月に開催した南昌ふれあいの場(江西師範大学)の開幕式開幕にあわせ、「心連心杯」江西省大学生日本語スピーチコンテストも実施

国際交流基金日中交流センター
心連心ウェブサイト
<http://www.chinacenter.jp/>



言語

[海外における日本語教育]

世界中のより多くの人に日本語を学ぶ機会を提供するため、日本語教育環境の基盤整備を進めています。また、各国・地域の政府や教育機関等と連携し、現地のそれぞれのニーズに応じた効果的な支援を行います。

日本語能力試験応募者数*

866,294人

74か国・地域、273都市で実施
*日本国内実施分も含む。

JFにほんごネットワーク メンバー数

91か国・地域、287機関

海外事務所及び「日本センター」による 日本語普及事業数/参加者数

28か国・地域、251件
127,202人

JF講座受講者数

28か国・地域、31都市
21,217人

日本語専門家派遣数

41か国・地域、137ポスト

日本語研修事業参加者数

105か国・地域、2,318人

2016年度を
ふりかえって

日本語学習機会を増やすため、 日本語教育環境整備に向けた事業を世界で展開

海外の日本語教育は、日本理解の基盤づくりであり、また、世界と日本の架け橋となる人材育成につながる重要な事業であると考えています。世界各国・各地域で日本語を教え、学ぶ人々が、より教えやすく、そして、学びやすい環境になるように、幅広い事業を行いました。

各地の日本語教育の中核的機関のネットワークであり、91か国・地域、287機関に広がる「JFにほんごネットワーク」(通称「さくらネットワーク」)や、22か所の基金海外事務所、8か所の「日本人材開発センター」と連携しながら、今後、世界中で日本語教育の充実と活性化を進めていきたいと考えています。

また、近年の海外の動きのひとつとして、日本語教育の中等教育・初等教育への拡大があります。2016年度は英国やラオス、ベトナム、トルクメニスタン等で、相手国の教育行政機関と連携しながら、教材

制作、教師研修、教育関係者の招へい事業等を実施し、小・中・高校等への日本語教育の導入・拡充をサポートしました。

さらには、各国・地域において、日本語教育を支える人材や日本との交流を担う人材の育成という観点から、日本語国際センターと関西国際センターで、のべ997人に対して研修を実施したほか、日本を含む全世界273都市で日本語能力試験を実施し、約76万人が受験しました。

こうした多様な事業を通じて、新たなニーズに応えつつ、世界の日本語教育がより広がり、そして、さらに充実していくよう、各地の日本語教育機関、日本語教育関係者と連携しながら、私たちは海外日本語教育推進事業を実施しています。

(日本語事業部長 鈴木 雅之)

日本語教育
<http://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/index.html>



日本語の国際化推進のための 基盤・環境の整備

世界のどこにいても日本語学習を長く継続できるよう、また日本語がより教えやすくなるよう、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるツールを独自に開発するとともに、教材制作、日本語能力試験の実施、日本語教育に関する調査・情報の提供等の事業を実施しています。



日本語コースブック「まるごと 日本のことばと文化」

日本語能力試験 (JLPT) の実施

日本語を母語としない人を対象とした世界最大規模の日本語能力試験を1984年から実施しています。マーシャル、アゼルバイジャン、アルメニア、タジキスタン、コートジボワールの5か国、さらにマラン(インドネシア)、マイアミ(米国)、カーディフ(英国)、ポルドー(フランス)の4都市で新規に試験を実施し、国内(45都道府県)を含む全世界合計74か国、273都市と実施国・都市数を拡大。総応募者数は866,294人に達しました。(受験者数755,802人)また、1984年の試験開始から、累計応募者数が10,840,525人となりました。



コスタリカにおける試験実施後の関係者の様子

JF講座の運営

レベル設定、目標設定や評価方法等において「JF日本語教育スタンダード」に準拠した日本語講座を実施しています。日本文化体験の要素も織り込み、より学びやすく、教えやすい日本語学習のモデルを提示しています。受講者数は増加し、2016年度は28か国・地域、31都市で実施、のべ21,217人が受講しました。

教授法の開発、教材・教育ツールの制作・提供

「JF日本語教育スタンダード」に準拠する日本語教材をはじめ、eラーニングサイト、映像・WEB教材等、インターネットや映像も活用し、教材の制作・普及に取り組んでいます。

●「まるごと 日本のことばと文化」開発・出版

「まるごと 日本のことばと文化」は、「JF日本語教育スタンダード」準拠のコースブック。日本語と日本文化を楽しみながら学ぶことができます。2016年度には「まるごと 中級1(B1)」を出版したほか、インドネシア、タイ、インドでの現地出版、活用法を紹介するセミナーの実施やサポート教材の多言語化等、普及促進にも力を入れました。

●日本語学習プラットフォーム「みなと」の公開

オンラインコースの運営や学習管理を行うための日本語学習プラットフォーム「みなと」を7月に一般公開し、日本語と日本文化を総合的に学ぶことができる「まるごと日本語オンラインコース」のほか、「アニメ・マンガの日本語(あいさつ)コース」「ひらがな/カタカナコース」を開講し(いずれも入門レベル)、ユーザー登録者は10,622人(2016年度末)となりました。

●新規学習サイト「ひろがる」[KANJI Memory Hint 1&2]等の公開

興味あるトピックから日本や日本語を楽しく学べる「ひろがる もっといろいろな日本と日本語」、日本語レベルや興味関心にあわせて選んだ楽曲を聴くことのできる「みんなで聞こう 日本の歌」等のサイトのほか、連想イラストとゲームで漢字を楽しく学べるスマートフォン版アプリ「KANJI Memory Hint 1&2」を公開しました。

日本語教育機関調査

海外の日本語教育の現状を把握するため2015年度に実施した「海外日本語教育機関調査」の集計を行い、137の国・地域で日本語教育の実施を確認することができました。また各国・地域ごとの結果や傾向を分析した報告書を作成し、ウェブサイトで公開しました。

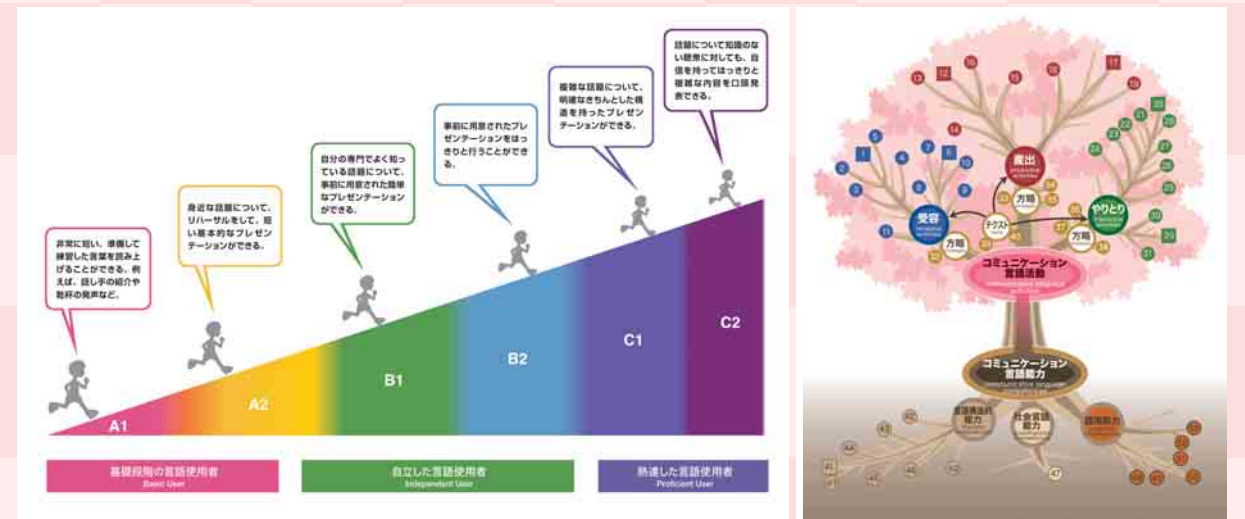


キエフ日本語講座「トライアルコース」修了式

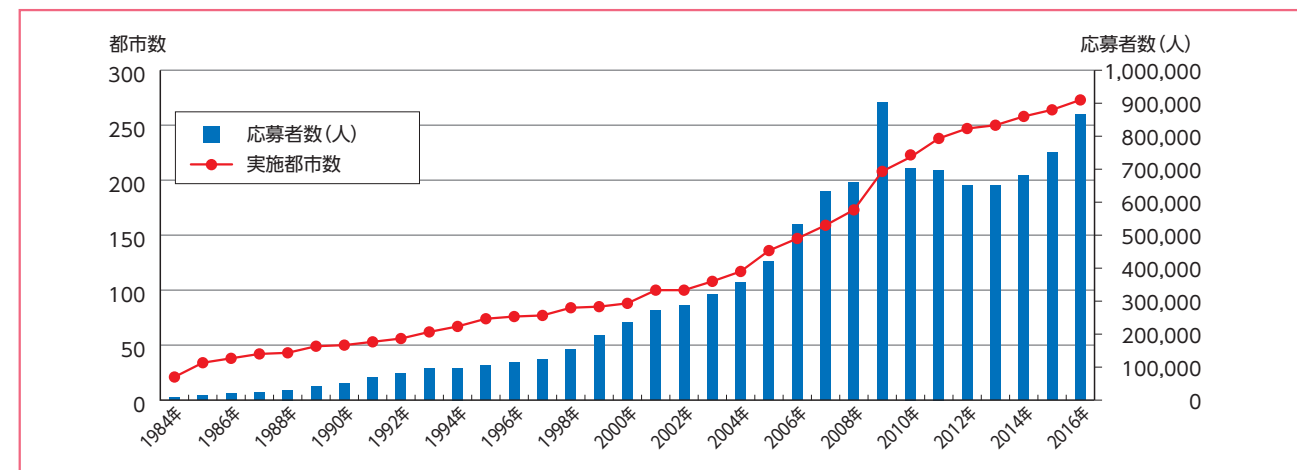
「JF日本語教育スタンダード」の活用推進

言語を使って何が出来るかという「課題遂行能力」と、お互いの文化を理解し尊重する「異文化理解能力」の育成を目指し、「JF日本語教育スタンダード」(以下「JFスタンダード」という)を開発し、2010年に発表しました。JFスタンダードを多くの人々に知ってもらえるよう、国内外のセミナー、研修会、ウェブサイトを通じて普及事業を行っています。

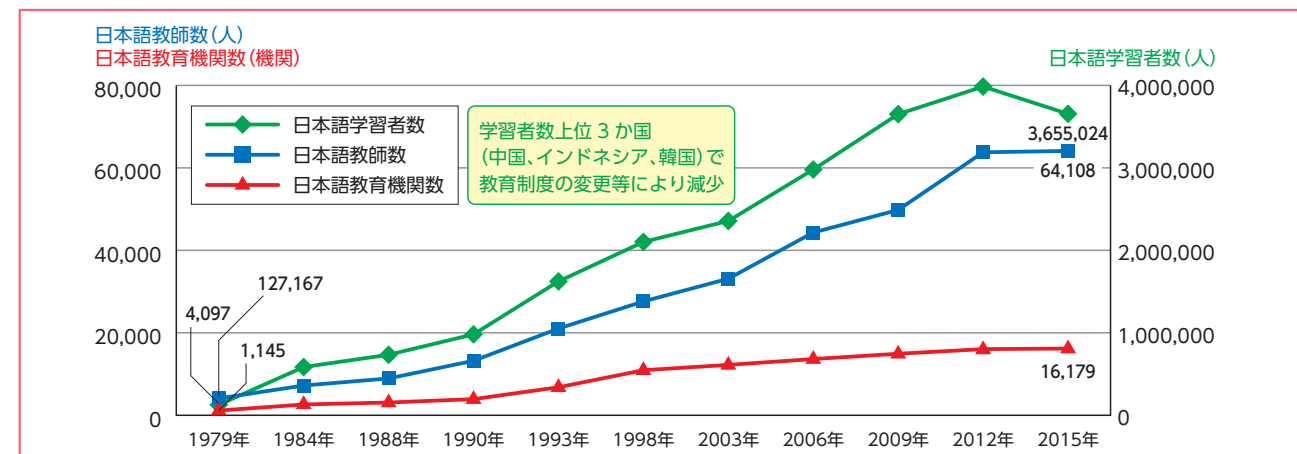
2016年度は、「JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック」の作成、JFスタンダードウェブサイトに公開しているロールプレイトのサンプル音声追加やテストの進め方動画の更新を行い、利用促進を図りました。また、日本語の熟達度を「〜できる」という形式で示したデータベース「みんなの「Can-do」サイト」には新たなCan-doを追加しました。



●日本語能力試験 応募者数と実施都市数の推移(全世界)



●日本語学習者/教師/教育機関数の推移



各国・地域の状況に応じた 日本語普及支援

各国・地域の政府や自治体、教育機関等と連携し、教育機関、教育政策、学習者の目的や関心等、現地の事情を踏まえて、教育機関への助成、日本語専門家の派遣、教師及び学習者を対象とした各種招へい研修等、効果的な支援を行っています。

日本語専門家の派遣

海外の教育機関等に日本語教育の専門家や指導助手を派遣しています。また、米国の初中等教育機関へ若手日本語教員の派遣も行っています。

<2016年度の派遣人数>

日本語上級専門家:21か国・地域、30ポスト 日本語専門家:35か国・地域、69ポスト
日本語指導助手:13か国・地域、16ポスト 米国若手日本語教員:1か国、22ポスト

日本語教師／学習者等の研修

海外での日本語教育を担う人材のスキルアップのため、日本語国際センターにおいて日本語教師招へい研修を実施。

<2016年度の研修参加人数>

日本語国際センター:56か国・地域から409人
関西国際センター:99か国・地域から588人

海外事務所／日本人材開発センター日本語講座部門(「日本センター」)による日本語普及事業

海外事務所や「日本センター」所在国で、各国の日本語教育事情に応じ、大学や高校での日本語教育導入の働きかけや日本語教師研修、教材制作等、日本語教育の普及・拡大につながる事業を実施しています。

<2016年度の実施件数>

28か国・地域で251件(参加者127,202人)

日本語教育機関への助成・支援

JFにほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバー*による教師研修、教材制作等の周辺波及効果の高い事業を支援するとともに、国際交流基金の海外事務所がない国の教育機関に対し、日本語普及活動の助成を行っています。

<2016年度の実施件数>

「さくらネットワーク」メンバー助成事業:45か国・地域で114件
日本語普及活動助成:62か国・地域で165件

*「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2016年度末現在91か国・地域287機関。

インターンの派遣

日本国内の日本語教師養成課程を有する大学と連携し、海外教育実習生(インターン)を海外日本語教育機関に派遣しています。

<2016年度の派遣人数>

15か国・地域の82機関へ国内47大学より274人

日本語国際センター

海外での日本語教育を総合的に支援・協力するため1989年に設立されました。海外の日本語教師を招へいして日本語、日本語教授法、日本文化等の研修を実施しています。また、日本語教材の制作や「JF日本語教育スタンダード」の普及事業(P.18参照)を行っています。



海外日本語教師研修(短期研修・夏期)

関西国際センター

海外の日本語学習者を支援する日本語研修施設として1997年に設立されました。各国の外交官、公務員や日本研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行っているほか、日本語学習者の訪日研修を実施しています。また、研修事業で得たノウハウを基に、日本語オンラインコース、日本語学習サイトやアプリ等のeラーニング教材の開発を推進しています。



外交官・公務員研修における授業風景

「さくらネットワーク」メンバー訪日教育旅行(日本語スタディツアー)



スリランカ(12校合同)グループによる最乗寺(神奈川県南足柄市)での文化交流

海外で日本語を学習しながらも実際に使う機会のない中高生に対し、コミュニケーション手段としての日本語を実体験する機会を提供するため、「日本語スタディツアー」を実施しました。独立行政法人国際観光振興機構(JNTO)との連携により日本国内の学校訪問マッチングを行い、同世代同士の交流が実現。2017年1月～3月に、9か国17グループ、計431人が訪日しました。帰国後、日本語学習意欲の向上や日本語クラス希望者の増加、地域の行政機関による日本語教師訪日研修の新たな提案企画等、さまざまな波及効果がありました。

各国・地域の
ニーズに応じて
支援策を選択

効果的な支援を
実現



日本語の授業では、グループ学習等の活動を多く取り入れている(ノンボン校)

ラオスの中等教育支援

ラオスの中等教育カリキュラムでは、日本語が選択制の第2外国語科目の一つになっています。首都ビエンチャンでは、2015年に1校、2016年に2校で日本語教育が始まりました。国際交流基金は、中等教育への日本語導入支援を目的として、2016年度にラオス教育スポーツ省教育科学研究所に日本語専門家を短期派遣し、教科書の開発支援や日本語導入校の教師を対象とした教師研修を開始しました。



アザディ名称世界言語大学での授業風景

トルクメニスタンにおける日本語教育普及

トルクメニスタンでは、2016年9月から中等教育段階での日本語教育の必修化と大学機関で新たに日本語講座が導入される等、近年、日本語教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。国際交流基金は、同国の日本語教育の急成長を支えるべく、2016年度にアザディ名称世界言語大学及びトルクメニスタン国民教育大学に日本語上級専門家の短期派遣及び日本語指導助手の派遣を行い、日本語教師の育成や教材開発に取り組んでいます。



対話

[日本研究・知的交流]

海外の日本研究者を支援するほか、各国の有識者同士の対話が深まるよう、シンポジウムや共同プログラム等を行っています。
また、国際的な課題の解決に向けて、人的ネットワークの形成を促進していきます。

日本研究機関支援数	日本研究フェローシップ数	知的交流分野助成数
25か国・地域 63機関	47か国・地域 174人	46か国・地域 142件

2016年度を
ふりかえって

日本との関係を重視する専門家たちと交流し、相互理解につながる事業を展開

日本研究のさらなる国際化を後押しし、各国共通の課題に取り組む人々との交流を深化

2016年は日本研究の国際化を象徴するいくつかの取り組みがありました。京都で開催された米国アジア学会(AAS)、日米からの参加も交えフィリピンにて過去最大規模で開催された「東南アジア日本学会第5回総会」——。中でも広域学会の準備体として設立された「東アジア日本研究者協議会」の第1回国際学術大会(韓国開催)は、欧米に劣らぬ研究の蓄積と多くの研究者の活躍にもかかわらず、これまで域内事情もあり国を越えた組織化が実現できていなかった東アジア地域において、日本研究の新たな時代の幕開けとして記憶されるに相違ありません。

中央アジアシンポジウムは、同地域との関係強化を目指す日本の知的分野での取り組みの嚆矢として、中央アジア各国が有する豊かな文化資源を切り口に今後さまざまな交流の可能性が議論されました。

「女性の活躍」をテーマに中東・北アフリカ8か国から来日した女性グループは、社会・経済の分野における日本の取り組みに刺激を受けるとともに、平和の構築こそが女性が輝く社会の基盤となることを広島で再確認しました。

(日本研究・知的交流部長 柳澤 賢一)

日米センター設立25周年を迎え、新たな対話と交流の取り組みに一層の努力

1980年代後半に、経済・文化摩擦で揺れた日米関係の困難な状況を打破するため、知的交流と地域・草の根交流を事業の柱として1991年に誕生した日米センターは、2016年、設立25周年を迎えました。

11月には、知的交流の主要事業としてセンター創設と同時に始まった「安倍フェローシップ・プログラム」の25周年記念シンポジウムを行い、フェローを含む著名な専門家が四半世紀の両国の関係をふりかえるとともに今後の課題を議論し、日米知的コミュニティにとって象徴的なイベントとなりました。また、2年目を迎えた「日米知識人交流事業」では、米国の多様なエスニック・コミュニティのリーダーを2人招へいし、日米間の新たな知的対話の形成を進めることができました。一方、地域・草の根交流の分野では、主要事業である「日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム」が15周年を迎えました。この15年間で59人のコーディネーターが日本から米国の地方に派遣され、約95万人のアメリカ人に日本の素顔を紹介してきました。これらの成果を基に、これからも日米の相互理解の進展に寄与するよう力を入れていきます。

(日米センター所長 茶野 純一)

日本研究・知的交流
<http://www.jpfi.go.jp/j/project/intel/index.html>



海外における 日本研究の促進

各国・地域の日本研究の基盤を強化し、専門家を育成するために、拠点となる機関に対し、国際会議や教員雇用、図書整備、訪日研修等の支援を行います。また、各地の日本研究者が国を越えて交流するネットワークを強化することで、日本研究のさらなる発展を促します。



第1回国際学術大会開会式

東アジア日本研究者協議会

東アジア地域初の日本研究ネットワーク組織「東アジア日本研究者協議会」の第1回国際学術大会が、2016年11月30日から12月2日まで韓国・仁川市で開催されました。この協議会は、基金が2010年度より開催してきた「東アジア日本研究フォーラム」から発展する形で、朴喆熙ソウル大学教授の提唱により発足、初の大会は同大学日本研究所が事務局を務めました。236人の研究者が集って38のパネルが設けられ、基金は大学院生による次世代パネルを中心に支援を実施しました。今後毎年、域内持ち回りで大会が開催されていく予定です。

日本研究機関支援

●ノースジョージア大学(米国)

東アジア地域研究における日本関連コースの充実のため、国際交流基金の支援を通じて、日本の映画・デジタルアニメ、文化人類学、日本語を専門とする3人の教員が新たに採用されました。同大学は2013年1月にノースジョージアカレッジ・州立大学とゲインズビル州立大学が合併し新たに発足した公立の総合大学で、米国南部における日本研究の発展に寄与することが期待されています。

●四川外国語大学(中国)

四川外国語大学日本学研究所・日本語学部に2017年度、新たに日本近現代文学専攻の博士課程が設置されます。中国西南部における日本研究の重要な拠点として、国際交流基金は2011年度から学術会議の開催や日本研究に関する学術書の出版事業へ支援を続けてきました。2020年に初の博士号取得者を輩出することを目指しています。



新たに採用されたアラン・オデイ助教授(人類学)による日本映画関連授業

日本研究フェローシップ

●ジーニー・ケンモツ氏(米国)

2012年度にフェローとして来日。慶應義塾大学で「鈴木春信と錦絵革命」をテーマに研究し、2016年12月にペンシルバニア大学で博士号を取得しました。フィラデルフィア美術館にて企画展アシスタントとして活躍した後、2017年6月よりポートランド美術館のキュレーターに就任しました。ケンモツ氏の就任により、同美術館の日米関連の展示企画等が充実していくことが期待されています。



2012年度論文フェローのジーニー・ケンモツ氏

知的交流の促進

日本と世界各国に共通する関心の高いテーマや重要課題について知識人らが対話し、人的な交流を重ね深める場として、国際会議やシンポジウムの開催、人材の派遣や招へいを行っています。次代の交流に必要な人材の育成、国際相互理解を促進し、世界の発展と安定への知的貢献を目指します。



シンポジウム「ひととく、つなぐ～中央アジアの文化遺産～」

中央アジアシンポジウム

豊かな文化遺産を擁する中央アジア5か国から計10人の専門家を招へいし、「ひととく、つなぐ～中央アジアの文化遺産～」と題し、シンポジウムを開催しました(2016年6月22日、東京にて)。日本ではまだよく知られていない各国の文化遺産を紹介しながら、共通課題であるそれらの保存・修復・活用について議論。文化遺産を架け橋に専門家同士のネットワークの構築や発展を目指しました。

サマー・インスティテュート2016

日本研究における国境を越えた共同研究の形成を視野に、東南アジア6か国と日米両国から研究者26人を招いて合宿型研修を行いました。ディスカッションや発表を通じて、研究者同士のネットワークを構築。また、合宿後には福島県を訪れ、震災から5年を経た被災地の復興状況を視察しました。この研修参加者数名による共同パネルが、翌年の国際学会(AAS-in-Asia)で実現しました。



グループワークの成果を報告するプレゼンテーション

現代日本特別理解プログラム

●ロンドン大学キングズ・カレッジ(英国)

英国における日本研究の新たな分野を開拓することを目的に、近現代世界史、安全保障学、戦略研究の視点から現代日本社会・政治の課題を分析する系統的なプログラムの創設を支援。日本関連講座やセミナー、ワークショップの開催を通して、日英間の相互理解促進に不可欠な次世代の知日派研究者の育成を行っています。



日本研究プログラムのセミナーの様子



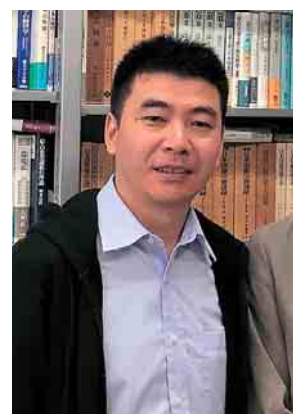
神奈川近代文学館で漱石ゆかりの展示品を見学するコンテスト入選者

夏目漱石没後100年記念事業

漱石没後100年を記念し「漱石と私」をテーマに海外の日本語学習者を対象とした国際エッセーコンテストや、国内外の漱石研究者や翻訳者を迎えた国際シンポジウムを朝日新聞社等と共催し、漱石作品の魅力に多角的に迫りました。また、コンテスト上位入選者の4か国5人を招へいし、鎌倉や京都等にある漱石ゆかりの地を視察しました。

中国知識人招へい

中国から、影響力を持つ若手・中堅研究者や知識人を日本に招へいしています。2016年度もさまざまな分野の専門家を招き、対日理解の深化や日中間の知的ネットワークの構築を図りました。参加者の段宏慶氏(ジャーナリスト)が、フィナンシャル・タイムズ紙の中国語版である「FT中文網」で日本の見聞を発信したコラムは大きな反響を呼び、737万件のアクセスを獲得。訪日成果が広く発信されました。



訪日コラムが大きな反響を呼んだジャーナリストの段宏慶氏

日米センター

日米センターは、日米両国が協力してグローバルな課題に取り組むことを目的に、1991年に設立されました。日米共同での世界への貢献と相互理解に基づくゆるぎない協力関係を実現すべく各界各層における対話と交流を促進しています。

日米センター／安倍フェローシップ25周年記念事業

安倍フェローシップは、日米の緊密な取り組みが必要な政策課題に関する調査研究の増進を目的に、米国社会科学研究評議会(SSRC)との共催により運営する研究奨学制度です。1991年に創設され、2016年までの25年間で405人の研究者やジャーナリストを支援してきました。2016年11月に開催された記念シンポジウム「激動する世界と我々の未来」には、安倍フェローを中心とした日米を代表する研究者15人が登壇し、約350人が参加しました。続いて行われたレセプションには、安倍晋三内閣総理大臣、キャロライン・ケネディ駐日米大使(当時)をはじめ、約200人の日米の関係者が出席しました。



日米センター／安倍フェローシップ25周年記念事業シンポジウム登壇者と関係者



基調講演者
ジェラルド・カーティス氏
(コロンビア大学バージェス記念名譽教授)
「不確かな未来に備える」

基調講演者 岡本行夫氏(岡本アソシエイツ代表)
「東アジアの新たな均衡を求めて」

活躍中の安倍フェローたち

●2004年度安倍フェロー ミレヤ・ソリス氏

ブルッキングス研究所上級研究員・日本研究チェアを務めるソリス氏は、日米メディアへの寄稿やインタビュー等精力的な発信を行っています。



●2009年度安倍フェロー アンドリュー・オロス氏

ワシントン・カレッジの政治学教授で東アジア及び先進民主主義国家の国際比較政治の専門家であるオロス氏は、2017年3月にJapan's Security Renaissance(コロンビア大学出版局)を出版しました。



●2002年度安倍フェロー サーディア・ペッカナン氏

25周年記念シンポジウムのパネリストの一人として登壇したワシントン大学ヘンリー・M・ジャクソン国際研究大学院教授のペッカナン氏は、2016年11月に日米センターの助成でAsian Designs(コーネル大学出版局)を出版しました。



日米知識人交流事業

米国の多様なエスニック・コミュニティーのリーダーを日本に招へいし、日米知識人のネットワークを形成する交流事業で、日本の研究者、政策実務家、市民セクターのリーダー等との対話や公開講演会を行っています。2016年度は、外交問題評議会シニア・フェローのエリオット・エイブラムス氏(7月)とテキサス大学システム総長補佐のジュリエット・ガルシア氏(10月)を招へいしました。



エリオット・エイブラムス氏講演会



ジュリエット・ガルシア氏講演会

JOI 日米草の根交流コーディネーター派遣プログラム

米国の非営利団体ローラシアン協会と共同で、地域に根ざした交流を進めるコーディネーターを米国の南部・中西部地域に2年間派遣しています。2016年にはプログラム設立15周年を迎え、10月1日記念事業を開催しました。当日は、元JOIコーディネーターが日本各地から集まり交流ネットワークを立ち上げるとともに、長野県上高井郡小布施町の町おこしの立役者となったセラ・カミングス氏を講師に招き、異国の地での町おこしの体験についてお話しいただきました。それに続く座談会では、国際文化交流に携わってきたパネリストが、それぞれの活動や体験を紹介し、会場からの質問も交えたディスカッションが行われ、地域における国際文化交流の価値について、共に考える機会を持つことができました。

●15周年記念事業



JOIプログラム15周年記念事業



15周年記念講演会で小布施の町おこしについて語る講師のセラ・カミングス氏

●JOI活動



インディアナ州インディアナポリスに派遣された第13期JOIコーディネーターの常盤千明氏 桜植樹祭にて



ネブラスカ州オマハのクレイトン大学に派遣された第13期JOIコーディネーターの野村忠氏は、大学からその活動が評価されDistinguished Recognition Awardを受賞

事業実績 文化芸術交流(P.11-15参照)

1.主催公演

日伯共同制作コンサート『上を向いて歩こう～Olha pro céu～』(ブラジル)
 スポーツ・文化・ワールド・フォーラム『ディヴァイン・ダンス 三番叟～神秘域～』(日本)
 松竹大歌舞伎 北京公演(中国)
 『リオから東京へ：上を向いて歩こう～Olha pro céu～』東京公演(日本)
 Noism『ラ・バヤデーラーの国』、『(マッチ売りの話) + 『passacaglia』(ルーマニア)
 DRUM TAO『浮世夢幻打楽／DRUM HEART』(ウズベキスタン)
 中央アジア武道団派遣(カザフスタン、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン)
 TICAD VI 邦楽公演『ヒダノ修一スーパー太鼓コンサート』(ケニア)

2.日本祭り開催支援

「全米桜祭り」2016参加(米国)
 「全米桜祭り」2017参加(米国)
 東京プラススタイル公演(メキシコ)
 グアナファト国際映画祭参加(メキシコ)
 アート・ミックス・ジャパン イン メキシコ(メキシコ)
 リバーナイトフェスティバル 能×3D映像公演『YUGEN 幽玄 The Hidden Beauty of Japan』(シンガポール)
 南アフリカ日本祭り『日野皓正クインテット(ジャズ)』『太鼓集団婢弥鼓(和太鼓)』公演(南アフリカ・ナミビア)
 ロンドン・ジャパン祭り『青笹し踊り』『手妻』公演(英国)

3.レクチャー・デモンストレーション

巡回展「日本人形」にあわせた岩槻人形製作体験ワークショップ(韓国)
 巡回展「新・現代日本のデザイン100選」にあわせた川上典孝(デザイン・ジャーナリスト)及び萩原修(デザイン・ディレクター)講演会(中国)
 巡回展「美しい東北の手仕事」にあわせた津軽鳳製作デモンストレーション(スリランカ)
 巡回展「武道の精神」にあわせた空手レクチャー・デモンストレーション(ブラジル、パラグアイ)
 日本映画上映「築地ワンダーランド」にあわせた映画監督・遠藤尚太郎、現地専門家による講演会(イタリア)
 巡回展「パラレル・ニッポン」にあわせた小淵祐介(建築家)講演会(ボスニア・ヘルツェゴビナ、スロベニア)
 巡回展「手仕事のかたち」にあわせた露木清高(箱根寄木細工職人)講演会・ワークショップ(モロッコ、エジプト)
 巡回展「東北一風土・人・暮らし」にあわせた飯沢耕太郎(写真評論家)講演会(ロシア・ドイツ)
 巡回展「マンガ・北斎・漫画」にあわせた原恵一(映画監督)講演会(ベルギー)
 巡回展「手仕事のかたち」にあわせた篠田英治(箱根寄木細工職人)講演会・ワークショップ(キルギス、タジキスタン)

4.海外派遣助成

助成実績：58か国、266都市、112件

5.パフォーマンス・アーツ・ジャパン

助成実績：13か国、49都市、22件
 北米：2か国、27都市、11件
 欧州：11か国、22都市、11件

6.国際展

第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ
 第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展

7.企画展

美術展「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術1950-1970」(ブラジル)
 写真展「日本の海岸線をゆく・トンガ王国展」(トンガ)
 美術展「日本・ベルギー友好150周年記念あの時みんな熱かった!アンフォルメルと日本の美術」(ベルギー)
 Kimono, au bonheur des dames(フランス)
 建築展「日本の家—1945年以降の建築と暮らし」(イタリア、英国)
 パリ日本文化会館トランスフィアシリーズ(フランス)
 #2「ディディエ・フィウザ・フォスティノ+アトリエ・ワン—マジカル・ハウス展」
 #3「内藤礼—信の感情」展

8.国際交流基金巡回展

デザイン、建築、写真、工芸、武道、ポップカルチャー等、さまざまなテーマのもとに制作した巡回展を計53か国・地域、83都市において開催

9.海外展助成

助成実績：27か国、44都市、44件

10.国際図書展参加

17か国、17都市、17件

11.翻訳出版助成

助成実績：23か国・地域、35件

12.専門家等交流

キュレーター・ミーティング(CCA・国立国際美術館共催)
 日韓次世代芸術家交流(日本演出者協会)
 日韓次世代芸術家交流(新国立劇場演劇研修所)
 日中次世代美術専門家交流
 アジア・プロデューサーズ・プラットフォーム・キャンプ(オーストラリア)
 アジア・プロデューサーズ・プラットフォーム・キャンプ(日本)
 日米学芸員交流
 在米現代日本美術調査(キュラトリアル・ワークショップ)
 障害×パフォーマンスアーツ特集2017～クリア・カニンガムと共に～

13.情報発信

第10回日本国際漫画賞関係者招へい
 Japanese Book News
 舞台芸術ウェブサイト(PANJ)
 文化人招へい(中国対外文化交流協会関係者)
 海外美術記者招へい
 日本映画データベース(JFDB)

14.文化協力

絵画保存修復事業(ウルグアイ)
 文化遺産国際協力コンソーシアムとの協力事業「2016エクアドル地震」による文化財被害の実状把握
 カマン・カレホック博物館保存修復学フィールドコース(トルコ)
 文化遺産保存修復実技講習(ウズベキスタン)
 障がい者スポーツ普及講習会(ジンバブエ)
 助成実績：1か国、2都市、1件

15.欧米ミュージアム基盤整備支援

3か国、4都市、4件

16.日本映画上映

75か国・地域で114件の日本映画上映・上映会の実施
 助成事業：15か国・地域、23都市、15件

17.テレビ番組紹介

62か国・地域、のべ309のテレビ番組を放送開始

18.中国高校生長期招へい

第10期生31人が帰国
 第11期生31人が来日

19.中国「ふれあいの場」

中国国内14都市で運営、催しを実施。のべ来場者61,486人
 日本企業文化紹介セミナー
 書道ワークショップ
 「ふれあいの場」担当者研修
 西寧「ふれあいの場」幹部訪日研修

20.ネットワーク整備

大学生交流事業
 日本高校生訪中事業
 リードアジア・「ふれあいの場」学生代表訪日研修等、派遣事業9件、招へい事業1件を実施

事業実績 海外における日本語教育 (P.16-20参照)

1. 「JF日本語教育スタンダード」の活用推進
- 「JF日本語教育スタンダード」紹介パンフレットの多言語化
- 「JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック」の作成
- 「まるごと 日本のことばと文化 中級 (B1)」の出版
- 国内外の各種セミナー・研修会等での情報提供、共同研究等へのアドバイス等、36件の活動を実施
2. JF講座の実施
- 28か国・地域、31都市
3. インターネットを活用した教育ツール
- (1) WEB版「エリンが挑戦!!にほんごできます」年間アクセス数:約550万件
 - (2) 「みんなの教材サイト」年間アクセス数:約173万件
 - (3) 「JFにほんごeラーニング みなと」ユーザー登録者数:約1万人
 - (4) 「ひろがる もっといろんな日本と日本語」年間アクセス数:約27万件
 - (5) 「みんなで聞こう 日本の歌」年間アクセス数:約20万件
 - (6) 「まるごと+ (まるごとプラス)」年間アクセス数:約274万件
 - (7) 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数:約150万件
 - (8) 「NIHONGO えな(いいな)」年間アクセス数:約122万件
 - (9) 「日本語でケアナビ」年間アクセス数:約76万件
 - (10) HIRAGANA/KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ) 年間ダウンロード数:約13万件
 - (11) KANJI Memory Hint 1&2 (文字学習アプリ) 年間ダウンロード数:約4万件
4. 日本語能力試験
- 第1回試験(7月3日):
- 海外31か国・地域、119都市、応募者数268,135人(受験者数227,852人)
- 国内*45都道府県、応募者数121,539人(受験者数113,227人)
- 第2回試験(12月4日):
- 海外69か国・地域、217都市、応募者数331,419人(受験者数281,812人)
- 国内*45都道府県、応募者数145,201人(受験者数132,911人)
- *日本国内での試験は、共催者である公益財団法人日本国際教育支援協会が実施
5. 日本語事業に関する調査、情報提供
- 「日本語教育機関調査」の集計、報告書作成
- 「国際交流基金日本語教育紀要」(年1回の発行)
- 「日本語教育国・地域別情報」サイトの運営

6. 海外事務所における日本語事業及び「JFにほんごネットワーク」(さくらネットワーク)
- 基金海外事務所事業:28か国・地域、251件
- 「さくらネットワーク」:91か国・地域、287機関
- さくらネットワークメンバー訪日教育旅行(日本語スタディツアー):9か国・地域、431人
- さくらネットワーク助成:45か国・地域、114件
- 日本語普及活動助成:62か国・地域、165件
7. 日本語専門家の海外派遣 / 招へい
- 日本語専門家等派遣
- 日本語上級専門家:21か国・地域、30ポスト
- 日本語専門家:35か国・地域、69ポスト
- 日本語指導助手:13か国・地域、16ポスト
- 米国若手日本語教員:1か国、22ポスト
- 日本語専門家短期派遣(マンマー2人)
- 海外日本語教育インターン派遣:国内47大学から15か国・地域の82機関へ274人を派遣
- 外国語教育関係者アドボカシー招へい
- インドネシア、タイ 計33人
8. 海外の教師を対象とした招へい研修
- 指導的日本語教師の養成
- 日本語教育指導者養成プログラム(修士課程):7か国、9人(新規5人、継続4人)
- 海外日本語教師研修
- 上級:2か国・地域、3人
- 長期:34か国・地域、55人
- 短期:33か国・地域、88人
- (短期(夏期):26か国・地域、48人)
(短期(冬期):17か国・地域、40人)
- 日系人:1か国、4人
- さくらネットワーク研修(基礎):9か国・地域、13人
- さくらネットワーク研修(上級準備):10か国・地域、24人
- JF日本語講座講師研修:17か国・地域、21人
- 大韓民国中等教育日本語教師研修:32人
- 中国大学日本語教師研修:28人
- 中国中等学校日本語教師研修:19人
- タイ中等教育公務員日本語教師養成研修:50人
- にほんご人フォーラム:6か国・33人
- タイ日本語教師研修:21人
9. 海外の学習者を対象とした招へい研修
- 専門日本語研修
- 平成27年度専門日本語研修(前年度からの継続)
- 外交官:34か国・地域、34人
- 公務員:3か国・地域、3人
- 平成28年度専門日本語研修
- 外交官:28か国・地域、29人
- 公務員:8か国・地域、9人
- 文化・学術専門家
- 2か月コース:11か国・地域、16人
- 6か月コース:10か国・地域、17人

- 日本語学習者訪日研修
- 各国成績優秀者:58か国・地域、58人
- 日本語教育キャパシティビルディング
- 東南アジア日本語教員養成大学移動講座
- インドネシア:30人 ベトナム:25人
- さくら拡充:25か国・地域、69人
- 中央アジア5か国日本語学習者訪日研修:102人
- タイ中等教育教員日本語ブラッシュアップ訪日研修:14人
- ブラジル日本留学予定者・日本語指導員訪日研修:25人
- 高校生:10か国・地域、30人
- 李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修:20人
- 国内大学連携による大学生訪日研修:16か国・地域、36人
- 地域交流研修
- 大阪府JET青年来日時研修:6か国・地域、35人
- 大阪府フィーンズランド州日本語教師研修:5人
10. 経済連携協定 (EPA) 関連日本語教育研修
- インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、日本語予備教育事業を6か月間実施
- EPA研修:2か国、4件
- 平成27年度(継続)
- インドネシア:291人 フィリピン:344人
- 平成28年度(新規)
- インドネシア:326人 フィリピン:323人
11. 受託研修
- 公益財団法人博報児童教育振興会世界の子ども日本語ネットワーク推進
- 第8回海外教師日本研修:14か国・地域、14人
- 日露青年交流センター青年日本語教師派遣前研修:1か国、16人
- 平成28年度慶尚南道日本語教師研修:10人
- キャノンベトナム日本語学習者訪日研修:1人
- 関西日本ラトビア協会日本語学習者訪日研修:1人
- ニュージーランド日本語教師訪日研修:7人
- ダーフィールド高校:7人
- ヘレタウンガ高校:7人
- 平成28年度大阪ガス国際交流財団インドネシア人大学生日本語研修:2人
- クウェート大学日本語学習者訪日研修:12人
12. 各センターの図書館
- 日本語国際センター 来館者数:19,954人
- 関西国際センター 来館者数:17,916人

事業実績 日本研究・知的交流 (P.21-25参照)

1. 日本研究機関支援
- (アジア)
- 韓国:翰林大学校、高麗大学校、国民大学校、ソウル大学校日本研究所
- 中国:四川外国語大学、西華大学、浙江工商大学、東北師範大学、南開大学、復旦大学、遼寧大学
- 台湾:国立政治大学
- インドネシア:インドネシア大学大学院
- シンガポール:シンガポール国立大学
- タイ:タマサート大学教養学部、タマサート大学東アジア研究所、チュラロンコン大学、チェンマイ大学
- フィリピン:アテネオ・デ・マニラ大学、デ・ラ・サール大学、フィリピン大学アジアセンター
- ベトナム:ベトナム社会科学院付属北東アジア研究所、ベトナム国家大学付属人文社会科学大学
- マレーシア:マラヤ大学
- インド:ジャワハルラル・ネルー大学、デリー大学、ビジュババラティ大学
- バングラデシュ:ダッカ大学
- (大洋州)
- オーストラリア:オーストラリア国立大学
- (米州)
- 米国:アイオワ大学、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター*、アンティオック・カレッジ、イリノイ大学、ウェズリアン大学、エモリー大学、京都アメリカ大学コンソーシアム*、ジョンズ・ホプキンス大学、シラキュース大学、ノースウェスタン大学、ノースジョージア大学、ピッツバーグ大学、ファーマン大学、フロリダ国際大学、ペンシルバニア州立大学、ミシガン州立大学、南メソジスト大学、メリー・ワシントン大学
- メキシコ:エル・コレヒオ・デ・メヒコ、メキシコ自治技術大学院
- ブラジル:サンパウロ大学
- (欧州)
- イタリア:ローマ大学サピエンツァ
- 英国:ロンドン大学東洋アフリカ研究学院
- スペイン:バルセロナ自治大学
- ウズベキスタン:タシケント国立東洋学大学
- ブルガリア:ソフィア大学「聖クレメント・オブリススキ」
- リトアニア:ヴィータウタス・マグヌス大学
- ルーマニア:ブカレスト大学
- ロシア:極東連邦総合大学地域・国際学術院、サンクトペテルブルク国立大学
- (中東・アフリカ)
- イスラエル:エルサレム・ヘブライ大学
- エジプト:カイロ大学

2. 北京日本学研究中心
- (1)招へい事業
- 北京外国語大学
- 訪日研究(修士第30期生):15人
- 博士フェロー(第15期生):3人
- 北京大学
- 訪日研修(博士第11期):17人
- (2)派遣事業
- 北京外国語大学:7人
- 北京大学:10人
3. 日本研究フェローシップ
- 学者・研究者
- 長期:63人/短期:26人
- 論文執筆:85人
4. 日本研究ネットワーク強化
- (欧州・中東・アフリカ)
- アルザス日本研究セミナー
- ロシア若手研究者育成
- 助成事業:27か国、27件
5. 知的交流強化
- (1)主催
- (アジア・大洋州)
- 日中韓文化交流フォーラム
- 日中知的交流強化事業
- グループ招へい:2件、個人招へい:15件
- 日印対話
- (米州)
- 夏目漱石没後100年記念事業
- ルベン・ダリオ記念事業
- (欧州・中東・アフリカ)
- 中央アジアシンポジウム
- 日独シンポジウム
- 中東・北アフリカグループ招へい:8か国、8人
- 欧州評議会共催公開セミナー「インターカルチュラル・シティ」:13か国・地域、58人、日本より2人派遣
- (2)知的交流会議助成:31か国・地域、45件
- (3)地域リーダー・若者交流助成:32か国・地域、32件
- (4)知的交流フェローシップ(招へい):1か国、1人

6. 現代日本理解特別プログラム
- (アジア・大洋州)
- オーストラリア国立大学
- (米州)**
- イェール大学
- ジョンズ・ホプキンス大学
- ハーバード大学
- スタンフォード大学
- (欧州)
- ロンドン大学キングズカレッジ
- INALCO(フランス国立東洋言語文化研究所)・パリデイドロ(パリ第7)大学
7. 米国との知的・草の根交流**
- [主催事業]
- (1)安倍フェローシップ
- 研究者:10人
- ジャーナリスト:4人
- (2)日米草の根交流コーディネーター派遣(JOIプログラム):13人(新規4人/継続9人)
- (3)日米知識人交流事業:2件
- (4)日系人リーダー・シンポジウム:1件
- [助成事業]
- (1)企画企画助成:12件
- (2)公募助成:10件(新規6件/継続4件)
- (3)ニューヨーク日米センター
- 小規模助成:31件
- 日米協会支援:5件
- *米国の大学が日本国内で展開する研究・育成機関
- **日米センター所管

貸借対照表 (2017年3月31日)

		[単位:円]				
資産の部	I 流動資産	現金及び預金	15,235,369,094			
		有価証券	7,598,136,259			
		前払金	171,366,662			
		前払費用	58,986,355			
		未収収益	182,036,374			
		未収金	781,914,490			
		その他の流動資産	79,385,068			
		流動資産合計		24,107,194,302		
		II 固定資産	1 有形固定資産	建物	13,318,500,796	
				減価償却累計額	△ 5,586,557,015	7,731,943,781
				構築物	319,497,661	
				減価償却累計額	△ 283,833,304	35,664,357
				機械装置	57,719,952	
				減価償却累計額	△ 11,088,634	46,631,318
				車両運搬具	130,752,852	
				減価償却累計額	△ 86,411,683	44,341,169
				工具器具備品	1,327,123,585	
	減価償却累計額			△ 938,005,405	389,118,180	
	美術品			503,476,215		
	減価償却累計額		△ 2,994,599	500,481,616		
	土地		63,515,000			
	有形固定資産合計			8,811,695,421		
	2 無形固定資産		ソフトウェア	296,802,214		
			電話加入権	441,000		
			ソフトウェア仮勘定	31,743,105		
			無形固定資産合計		328,986,319	
			投資その他の資産			
	投資有価証券		51,590,379,851			
	長期預金		9,400,000,000			
	敷金保証金		934,171,802			
	投資その他の資産合計		61,924,551,653			
	固定資産合計			71,065,233,393		
	資産合計			95,172,427,695		
	負債の部		I 流動負債	預り補助金等	3,983,602,000	
				預り寄附金	60,340,534	
				未払金	3,412,863,986	
				未払費用	2,236,427	
				前受金	350	
				預り金	6,738,647	
				前受収益	15,912,658	
				リース債務	5,603,912	
		為替予約		22,192,604		
		引当金				
		賞与引当金		14,348,351	14,348,351	
流動負債合計				7,523,839,469		
II 固定負債		資産見返負債				
		資産見返運営費交付金		1,457,495,203		
		資産見返補助金等		5,820,817		
		資産見返寄附金		3,436,357		
		ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金		31,743,105	1,498,495,482	
		長期預り補助金等	8,452,152,457			
		長期リース債務	8,455,790			
		資産除去債務	29,707,272			
		固定負債合計		9,988,811,001		
		負債合計		17,512,650,470		
純資産の部		I 資本金	政府出資金	77,729,095,177		
			資本金合計		77,729,095,177	
		II 資本剰余金	資本剰余金	△ 98,423,146		
			損益外減価償却累計額(△)	△ 5,637,543,472		
			損益外減損損失累計額(△)	△ 126,000		
			損益外利息費用累計額(△)	△ 7,935,558		
			民間出えん金	907,978,787		
			資本剰余金合計		△ 4,836,049,389	
		III 利益剰余金	積立金	186,782,166		
			当期末処分利益	4,602,141,875		
			(うち当期総利益)	4,602,141,875)		
		利益剰余金合計		4,788,924,041		
		IV 評価・換算差額等	繰延ヘッジ損益	△ 22,192,604		
			評価・換算差額合計		△ 22,192,604	
		純資産合計		77,659,777,225		
		負債純資産合計		95,172,427,695		

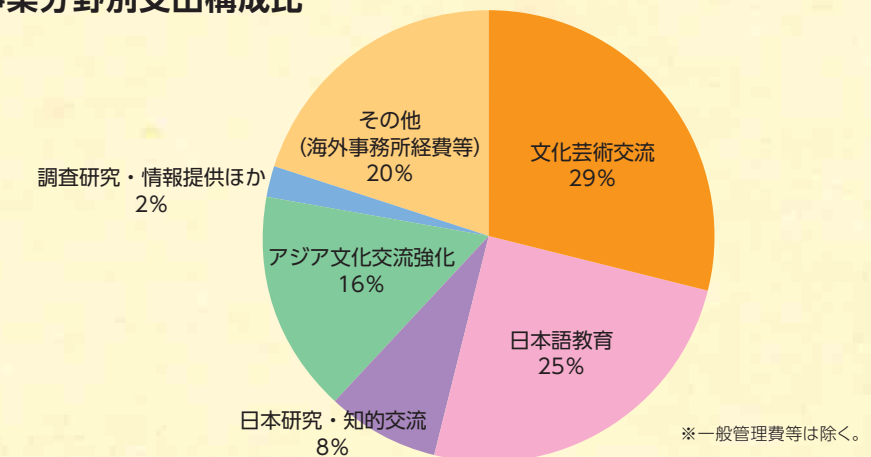
損益計算書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

		[単位:円]	
経常費用	文化芸術交流事業費	6,509,693,575	
	日本語教育事業費	5,880,854,534	
	日本研究・知的交流事業費	1,949,524,691	
	調査研究・情報提供等事業費	589,981,869	
	アジア文化交流強化事業費	3,391,919,305	
	その他事業費		
	在外事業費	3,965,805,536	
	文化交流施設等協力事業費	190,807,256	4,156,612,792
	一般管理費		1,277,564,737
	財務費用		674,653
	雑損		129,949,800
	経常費用合計		23,886,775,956
	経常収益	運営費交付金収益	17,868,347,998
運用収益		952,303,697	
受託収入		21,689,868	
補助金等収益		3,387,861,765	
寄附金収益			
寄附金収益		58,556,813	
特定寄附金収益		181,068,667	239,625,480
資産見返戻入			
資産見返運営費交付金戻入		245,031,017	
資産見返補助金等戻入		4,057,540	
資産見返寄附金戻入		871,586	249,960,143
財務収益			
受取利息		411,566	411,566
雑益			
日本語能力試験受験料等収益	945,339,859		
その他の雑益	392,295,992	1,337,635,851	
経常収益合計		24,057,836,368	
経常利益		171,060,412	
臨時損失	固定資産除却損	5,310,093	
減損損失		783,530	6,093,623
臨時利益	運営費交付金精算収益化額	4,428,697,547	
	資産見返運営費交付金戻入	5,686,320	
	固定資産売却益	2,791,219	4,437,175,086
当期純利益		4,602,141,875	
当期総利益		4,602,141,875	

利益の処分に関する書類(2017年6月29日)

		[単位:円]	
I 当期末処分利益	当期総利益	4,602,141,875	4,602,141,875
	利益処分額		
II 利益処分額	積立金		4,602,141,875

2016年度事業分野別支出構成比



民間からの資金協力

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。ここでは、2016年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介いたします。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

① 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2016年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」とおりです。

● 事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

● 基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2016年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」とおりです。

② 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1~4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しのご案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2016年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」とおりです。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2016年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」とおりです。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2016年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」とおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。

寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

- 通常の寄附金の損金算入限度額
(資本金等の額×当期の月数/12×0.25%+所得の金額×2.5%)×1/4
- 特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額
(特別損金算入限度額)
(資本金等の額×当期の月数/12×0.375%+所得の金額×6.25%)×1/2

(2) 個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2016年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	44件	82,403,000円
賛助会	34件	7,350,000円
事業費への寄附	9件	75,050,000円
民間出えん金	1件	3,000円
特定寄附金	31件	193,068,667円(注2)

(注2) うち、151,195,175円及び2015年度より繰り越した特定寄附金29,873,492円を、11事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(12,000,000円)は、2件の事業に対する助成金として2017年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2016年度末までの累計で、一般寄附金として約26億8,396万円、特定寄附金として約672億2,143万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2016年度に総額約4,173万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいております。

2016年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者(()内は寄附対象事業、順不同、敬称略)

- 日本たばこ産業株式会社(ロシアの大学への日本語・日本研究支援)
- 東京瓦斯株式会社(東南アジア日本語教育支援事業)
- 株式会社ベネディクト(ASPac事業)
- 鈴木 千壽(ローマ日本文化会館の庭園整備)
- 藤木 義昭(JOI日米草の根交流コーディネーター派遣プログラム)
- 松山 公顯(ほか個人2人(事業費全般))

民間出えん金寄附者(敬称略)

- 藤木 義昭

民間出えん金による支援事業

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する「冠寄附」の例)

高砂熱学工業・日本研究フェロウシップ
(寄附者は高砂熱学工業株式会社。東南アジアの日本研究振興のために、同地域の若手日本研究者に訪日研究の機会を提供。2016年度はベトナムから1人のフェロウを招へい)

「渡辺健基金」図書寄贈
(寄附者は渡辺行信氏(米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)。中国天津社会科学院に日本研究のための図書を寄贈。2016年度は210冊の図書を寄贈)

賛助会会員(2016年度末現在、50首順、敬称略)

(1) 特別会員

SMBC日興証券(株)／松竹(株)／(株)みずほ銀行／(株)三菱東京UFJ銀行

(2) 普通会员

(公財)あすか財団／(一財)池坊華道会／出光興産(株)／(株)印象社／(一財)NHKインターナショナル／カトーレック(株)／(株)講談社／(公財)講道館／(株)国際サービス・エージェンシー／(学)駒澤大学／(一財)今日庵／(株)資生堂／(一財)少林寺拳法連盟／スターレーン航空サービス(株)／(一財)全日本剣道連盟／(株)第一成和事務所／ダイキン工業(株)／大和証券(株)／東京ビジネスサービス(株)／(株)日本折紙協会／(一社)日本映画製作者連盟／(一財)日本国際協力センター／(株)日立製作所／富士ゼロックス(株)／(株)凡人社／みずほ証券(株)／(株)三井住友銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)／森ビル(株)／ほか法人1社

特定寄附金による支援事業(()内は事業実施国、順不同)

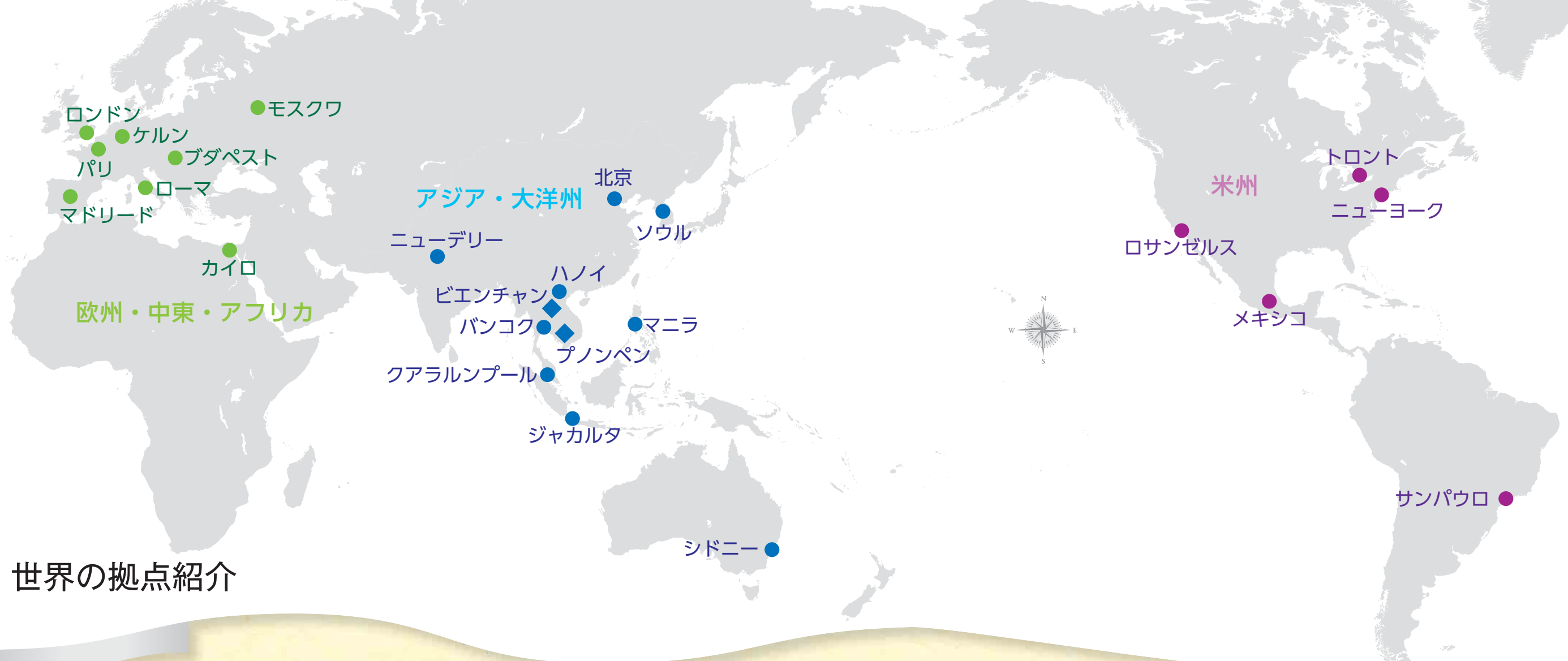
アジア女子大学奨学金プログラム(バングラデシュ)／CWAJ女性のための国際文化交流奨学金制度(日本)／ミュージック・フロム・ジャパン2017アーティスト・レジデンス(米国)／日米研究インスティテュート(米国)／デューク・ロー・スクール日本法・文化プログラム(米国)／エルエスエイチアジア奨学金(日本)／第22回ホノルル・フェスティバル(米国)／バルカン室内管弦楽団公演2016(日本・スイス)／とやま世界こども舞台芸術祭2016(日本)／四天王寺ワッソ(日本)／ポートランド日本庭園拡張計画(米国)

寄附金以外の主な支援例(敬称略)

- (公財)石橋財団
(「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展における日本館展示」への助成、及び「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術1950-1970」展への助成)
- (一社)尚友倶楽部
(「フエ外国語大学及びダナン外国語大学への日本語教材・機材購送」及び「ベトナム日本研究学生・若手研究者 日本語・日本文化訪日研修」への助成)

(注5) 支援例について、詳しくは国際交流基金ウェブサイトの「寄附者等一覧」に掲載しています。

<http://www.jpff.go.jp/j/about/support/donation/list.html>



世界の拠点紹介

海外事務所

イタリア ローマ日本文化会館
URL: <http://www.jfroma.it/>
(イタリア語・日本語)

ドイツ ケルン日本文化会館
URL: <http://www.jki.de/>
(ドイツ語・日本語)

フランス パリ日本文化会館
URL: <http://www.mc.jp.fr/>
(フランス語・日本語)

韓国 ソウル日本文化センター
The Japan Foundation, Seoul
URL: <http://www.jpf.or.kr/>
(韓国語・日本語)

中国 北京日本文化センター
The Japan Foundation, Beijing
URL: <http://www.jpfbj.cn/>
(中国語)

インドネシア ジャカルタ日本文化センター
The Japan Foundation, Jakarta
URL: <http://www.jpf.or.id/>
(インドネシア語・英語)

タイ バンコク日本文化センター
The Japan Foundation, Bangkok
URL: <http://www.jfbkk.or.th/>
(タイ語・日本語・英語)

フィリピン マニラ日本文化センター
The Japan Foundation, Manila
URL: <http://www.jfmo.org.ph/>
(英語)

マレーシア クアラルンプール日本文化センター
The Japan Foundation, Kuala Lumpur
URL: <http://www.jfkl.org.my/>
(英語)

インド ニューデリー日本文化センター
The Japan Foundation, New Delhi
URL: <http://www.jfindia.org.in/>
(英語)

オーストラリア シドニー日本文化センター
The Japan Foundation, Sydney
URL: <http://www.jpf.org.au/> (英語)

カナダ トロント日本文化センター
The Japan Foundation, Toronto
URL: <http://www.jftor.org/>
(英語)

**米国 ニューヨーク日本文化センター
ニューヨーク日米センター**
The Japan Foundation, New York
URL: <http://www.jfny.org/>
(英語)

米国 ロサンゼルス日本文化センター
The Japan Foundation, Los Angeles
URL: <http://www.jflalc.org/>
(英語)

メキシコ メキシコ日本文化センター
The Japan Foundation, Mexico
URL: <http://www.fjmex.org/>
(スペイン語)

ブラジル サンパウロ日本文化センター
The Japan Foundation, São Paulo
URL: <http://fjssp.org.br/>
(ポルトガル語)

英国 ロンドン日本文化センター
The Japan Foundation, London
URL: <http://www.jpf.org.uk/>
(英語)

スペイン マドリード日本文化センター
The Japan Foundation, Madrid
URL: <http://www.fundacionjapon.es/>
(スペイン語・日本語)

ハンガリー ブダペスト日本文化センター
The Japan Foundation, Budapest
URL: <http://www.japanalapitvany.hu/>
(ハンガリー語・日本語・英語)

**ロシア 全ロシア国立外国文献図書館
[国際交流基金]文化事業部
(モスクワ日本文化センター)**
The Japanese Culture Department
"Japan Foundation" of the All-Russia State
Library for Foreign Literature
URL: <http://www.jpfmw.ru/>
(ロシア語・日本語)

エジプト カイロ日本文化センター
The Japan Foundation, Cairo
URL: <http://www.jfcairo.org/>
(アラビア語・英語)

ベトナム ベトナム日本文化交流センター
The Japan Foundation Center for
Cultural Exchange in Vietnam
URL: <http://jpf.org.vn/>
(ベトナム語・日本語・英語)

**カンボジア アジアセンタープノンペン
連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Phnom Penh Liaison Office
URL: <http://jfpnn.org/>
(英語)

**ラオス アジアセンタービエンチャン
連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Vientiane Liaison Office
URL: <http://jfacvt.la/>
(ラオス語・英語)

国内附属機関・支部

日本語国際センター
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36
TEL: 048-834-1180 FAX: 048-834-1170
<http://www.jpf.go.jp/j/urawa/>
■ 図書館
TEL: 048-834-1185 FAX: 048-830-1588
URL: http://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/j_library.html

関西国際センター
〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート
北3-14
TEL: 072-490-2600 FAX: 072-490-2800
URL: <http://www.jfkc.jp/>
■ 図書館
TEL: 072-490-2605 FAX: 072-490-2805
URL: <http://www.jfkc.jp/ja/library/>

京都支部
〒606-8436 京都市左京区粟田口鳥居町
2-1
京都市国際交流会館3階
TEL: 075-762-1136 FAX: 075-762-1137
URL: <http://www.jpf.go.jp/j/world/kyoto.html>

